

6年制薬剤師を輩出する7回目となる第103回薬剤師国家試験(国試)は、2月24、25日の両日に実施された。表1に示すように受験者総数1万3579人、総合合格者数9584人、総合合格率70.58%で、102回(71.58%)とほぼ同じ総合合格率であった。6年制新卒の合格率は、84.87%(合格者数7304人)で、102回(85.06%)とほぼ同程度、6年制既卒の合格率は47.00%(合格者数2151人)で、102回(50.83%)よりやや低下している。その他(旧4年制卒、4年制卒を含む)も32.58%(合格者数129人)と102回(30.21%)と同様に低い割合を示した。

第101回国試より「合格基準」が改訂され、相対基準が適応されたことを踏まえ、問題のレベルは103回においても易化することなく、「基礎力」「考える力」「医療現場での実践力」を問う問題は継続して多く出題されている。臨床的見地からの判断を問う内容が多くなっていることから「問題解

医学アカデミー薬学セミナー学長
木暮喜久子

決能力」や「臨床能力」を持つ6年制薬剤師に対する期待を感じさせる傾向は続いているといえる。

2019年春に実施される第104回国試は、103回と同様の傾向で、実践力・臨床能力を問われる問題は継続出題されると思われる。また、新しく104回より「禁忌肢」が導入され、公衆衛生に甚大な被害を及ぼすような内容、倫理的に誤った内容、患者に対して重大な障害を与える危険性のある内容、法律に抵触する内容等、誤った知識を持った受験者が識別されることになる。受験者は、導入の意義を理解し、対応していくことが重要である。



例年難易度の高い理論問題の「物理・化学・生物」で、同様に低い正答率となった。また、実践問題では、「病態・薬物治療」の正答率が低かった。

1) 既出問題の出題は全体の20%くらいとされ、単なる正答の暗記による解答が行われないように、問題の趣旨が変わらない範囲で設問および解答肢などを工夫することになっている。101回では再出題が「物理」と「衛生」で出題されたが、103回では102回と同様に既出問題そのままの再出題はなかった(薬ゼミリサーチ:再出題0%)。近年の既出問題を解くことは傾向をつかむために重要であるが、答えを丸暗

記するのではなく、参考書などで周辺の知識もしっかり勉強してほしい。

2) コア・カリキュラムの改訂(改訂コア・カリ)により、19年からの長期実務実習中に必ず体験してほしいとされる「代表的な8疾患※2」が発表されているが、実践問題を中心にその疾患が多く出題され、102回を上回る出題数であった。

※1 「薬ゼミ自己採点システム」: 3月27日現在、1万0958人のデータ
 ※2 「代表的な8疾患」: がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症(薬学実務実習に関するガイドライン 15年2月 文部科学省)

1 第103回薬剤師国家試験の総評と104回の合格に向かって

第103回国試の平均点は、表2のよう

に102回に比べて合計で1.05点低下しているが、ほぼ同様であった。ただし、採点における調整により、不適切問題が1題(問217:全員を正解として採点)、複数解答問題が4題(問127、問224、問260、問292:複数

表1 第103回薬剤師国家試験の合格率

| | 合格率 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|---------------|--------|---------|---------|--------|
| 総数 | 70.58% | 14,876名 | 13,579名 | 9,584名 |
| 6年制新卒 | 84.87% | 9,555名 | 8,606名 | 7,304名 |
| 6年制既卒 | 47.00% | 4,834名 | 4,577名 | 2,151名 |
| 旧4年制卒・受験資格認定者 | 32.58% | 487名 | 396名 | 129名 |

表2 出題形式別平均得点率(得点) 101~103回比較

| 出題形式 | 103回 | 102回 | 101回 |
|----------|---------------------|--------------------|--------------------|
| 必須(90問) | 78.74% (70.87点) | 82.3% (74.04点) | 82.5% (74.24点) |
| 理論(105問) | 56.32% (59.14点) | 55.7% (58.53点) | 59.3% (62.21点) |
| 実践(150問) | 65.39% (98.09点) | 66.2% (96.58点) | 69.5% (104.25点) |
| 合計 | 66.11% (228.09点) | 67.2% (229.14点) | 69.8% (240.69点) |

※101回国試は採点対象より2問除外のため、全343問
 ※102回国試は採点対象より4問除外のため、全341問
 ※103回国試は全345問

の選択肢を正解として採点)であった。「薬ゼミ自己採点システム※1」による103回の領域別正答率(表3)では、

2 薬剤師国家試験の概略と104回に向けての対策

国家試験は、必須問題(90問)と一般問題(255問)の合計345題である。出題試験領域は「物理・化学・生物」「衛生」「薬理」「薬剤」「病態・薬物治療」「法規・制度・倫理」「実務」の7領域である。試験は、領域別に行うのではなく、薬学全領域を出題の対象として、「必須問題」と「一般問題」とに分け、さらに一般問題を「薬学理論問題」と「薬学実践問題」とした3区分で行われる(表4)。それぞれの出題区分は下記のような問題内容で出題される。

1) 「必須問題」は、全領域で出題され、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する問題であり、共用試験と同様の五肢択一の問題である。また「必須問題」は、一般問題に比べて比較的正答率が高い問題が多く得点源である。「必須問題」は、80~90%の得点率を目指して勉強してほしい。103回薬ゼミ自己採点システムにおいて正答率が、「法規・制度・倫理」が101回、102回と比較して5%程度、「実務」が10%程

Since 1976

入社1年目

入社2年目

入社5年目

だから、H.H.D.

マスコットキャラクター はんにゃん

つながりを生み出す力で日本の健康をささえる。

阪神調剤ホールディング株式会社